

第41回歴史地震研究会(木曾御嶽大会)のお知らせ(第4報)

1. 研究発表会の場所

木曾町文化交流センター 多目的ホール

長野県木曾郡木曾町福島 5129 番地(JR 木曾福島駅徒歩 13 分)

<https://www.town-kiso.com/facility/100034/>

<https://www.town->

[kiso.com/files/file/box/bb/bbf7ac8eccdd4427596aa554a250854d986ed700.pdf](https://www.town-kiso.com/files/file/box/bb/bbf7ac8eccdd4427596aa554a250854d986ed700.pdf)

尚、会場にはゴミ箱はありません。会幹旋の弁当容器は会が回収して、直接クリーンセンターへ持ち込みます。

2. 日程

2024年 9 月 13 日(金)12時開場～15 日(日)の 3 日間

13日:研究会・総会・懇親会

14日:研究会

15日:巡検・公開講演会・地域交流会

○大会参加費として、事前申し込み時に会員・非会員とも 2,500 円(学生は無料)を徴収します。

○今回の公開講演会・地域交流会は巡検コースに含まれますが、王滝村公民館まで自力で往復できるならば巡検不参加でも参加は可能です。

3. 公開講演会・地域交流会

テーマ:「長野県西部地震から 40 年」

- 当時を知る飯尾能久京都大学名誉教授の講演
- 元王滝村誌編纂室長 澤田義幸氏(御嶽山火山マイスターネットワーク代表)のお話
- 地震を経験された方の体験談など地域交流の時間

日 時:2024年9月15日(日)13:00～15:00(12:30 開場)

場 所:王滝村公民館 長野県木曾郡王滝村 2758 番地 3

主 催:歴史地震研究会

共 催:王滝村

後 援:国土交通省中部地方整備局、長野県、木曾町、木曾町教育委員会、
御嶽山火山マイスターネットワーク、名古屋大学減災連携研究センター・

地震火山研究センター・御嶽山火山研究施設

参加費:無料

対 象:一般(長野県西部地震を経験された方、経験されていない方など)

地元配布させていただいたチラシは下記で見られます。

https://www.histeq.jp/meeting/41st_taikai_public_lecture.pdf

4. 発表について

口頭発表は、各自の PC を会場のプロジェクターにHDMIで接続してください。Mac等必要な方は

変換ケーブル等をご用意ください。発表時間は12分、質疑応答が3分です。

ポスターは初日から大会議室の中に掲示できます。縦180cm×横120cmのボード内に納まるようにご用意ください。但し、ボードへの掲示には、会場ご指定の粘着剤「ひつつき虫」以外は利用できません。軽い用紙がお勧めです。ひつつき虫は、ポスター1件に11片は会で用意いたしますが、それ以上必要な方は各自ご持参ください。また、使用済みひつつき虫はポスターと一緒に各自お持ち帰り願います。会場ではゴミを出せません。

9月初旬現在新型コロナウイルス感染者数は増加傾向と言えます。発表者はコアタイムにマスク着用等、個々人の対処方法と手段を各自ご用意願います。

5. 巡検

おんたけ休暇村に宿泊の方:8時出発(チェックアウト時精算が必要な方は前日精算推奨)～さとテラス [バスを乗り換え休暇村宿泊以外の方と合流します。荷物を忘れずに移動いたしましょう。]

休暇村以外の宿泊の方:木曾町文化交流センター前 8時出発 ～木曾町御嶽山ビジターセンターさとテラス三岳[休暇村組と合流]～震災慰霊碑・噴火慰霊碑～御嶽崩れ・御嶽山・ビジターセンターやまテラス王滝など(弁当昼食)～王滝村公民館(公開講演会・地域交流会)～JR木曾福島駅(16時頃解散予定)

注:秋の行楽シーズンの週末です。木曾福島駅到着予定時刻は目安であり保証の限りではございません。中央本線特急等帰路の切符手配等は柔軟にお願いいたします。また当日木曾福島駅で切符購入すると時間が心配です。予めの手配を推奨します。

今回は巡検参加者の個人情報研究会が収集する必要が生じない様に、巡検参加者全員をカバーする旅行保険ではなく、会としては行事主催者賠償責任保険だけに加入しております。巡検参加中の個人的な怪我や事故等には、各自旅行保険や傷害保険等への加入で備えて頂くようお願いいたします。

6. 大会参加申込

今回は当日会場での受付時間短縮のため、決済等の事務手数料を支払って事前申し込み制としております。参加予定で申込未了の方は至急下記より申込と決済完了をお願いいたします。

プランG 研究会参加

https://select-type.com/rsv/?id=Vt7RNEz0QQI&c_id=337860&mode=1&y=2024-09

尚、9月以降の申込は確認に時間を要します。申込後1両日中に行事委員から確認メールが来ない場合には、rekishizishin2024@gmail.com にご連絡ください。

注:当日会場は事前申込完了者優先です。現地で参加申込の場合、ダウンロード配布の予稿集を当日は入手できない他、入場までに相当お待ち頂く可能性があります。会員各位の発表会運営円滑化へのご協力を是非お願い申し上げます。

7. 研究会会場までのアクセス情報と周辺情報

会場(木曾町文化交流センター)は、JR中央本線の木曾福島駅から徒歩約10分の場所にあります。木曾福島駅には、上下線とも概ね1時間に1本の特急(しなの)が停車します。

研究会会場の周辺では昼食が取れる場所が数軒程度に限られます。徒歩 15 分圏内に、セブンイレブンやイオン(スーパー)があります。

木曾福島駅は標高770m、休暇村は1500m、王滝村も900m、と海岸低地に比べて4°C~9°Cくらいは気温が低い避暑適地です。夜間や曇りの日は相当涼しいはずなので、是非1枚羽織るものをお持ちください。

ゴミは会場で処理できません。各自持ち帰るようにお願いいたします。

第41回歴史地震研究会(木曾御嶽大会)プログラム

9月13日(金)

研究発表会(第1日) 開場・受付開始 12:00～

開会の挨拶 13:00～13:15

祝辞 木曾町長 原 久仁男様

口頭発表セッションI 13:15～14:30

座長 松浦律子

O-01 今村隆正

長野県西部地震と山津波災害－生還者の証言と教訓－

O-02 宍倉正展

木曾山脈西縁断層帯の活動性に関するレビュー

O-03 原田和彦

前近代における長野県大北地域の地震活動

O-04 山浦直人

善光寺地震(1847)の余震・鳴動記録と活動範囲

O-05 入江さやか

松本藩関係者による1847年善光寺地震絵図

休憩<10分>

口頭発表セッションII 14:40～15:55

座長 宍倉正展

O-06 宮川充史

濃尾地震における死者の特徴

O-07 河内一男

天長秋田の地震と昭和新潟地震の「大河の水涸れる」

O-08 都司嘉宣

秋田県千屋断層は1896年と1423年に起震した

O-09 鏡味洋史・水田敏彦

地震体験記から読み解く、福島県会津での1964年新潟地震

O-10 松浦律子

1751年宝暦越後の地震の震源域は鳥ヶ首岬沖の沿岸海域だ

休憩<10分>

総会 16:05～16:40

懇親会 18:00～

9月14日(土)

研究発表会(第2日) 開場・受付開始 9:00～

口頭発表セッションIII 9:30～10:30

座長 行谷佑一

O-11 石辺岳男・小川陽子・木内亮太・西條裕介・古村美津子・松浦律子

機械学習を用いた震度データからの震源推定の可能性検討

O-12 服部健太郎・大邑潤三

1870年の伊豆諸島南部の海底火山噴火

O-13 松岡祐也

八丈島慶長十年噴火に関する史料の検討

O-14 武村雅之

「愚漫大人見聞録」が記す朝鮮人殺傷事件: 関東大震災の闇を考える

休憩<10分>

口頭発表セッションIV 10:40～11:55

座長 松岡祐也

O-15 水田敏彦・鏡味洋史

秋田から見た1923年関東大震災ー秋田県公文書館収蔵資料の内容紹介ー

O-16 行谷佑一

熱海市における1703年元禄関東地震津波の挙動について

O-17 三神 厚・神山 眞・藤田孝康

関東地震や南海地震にともなう地盤隆起によって被災した漁港とその復興

O-18 柳井七海・福島栄寿・北村昌卓・平井 敬

戦時下の新聞は昭和東南海地震をいかに伝えたか

O-19 西山昭仁・原田智也

前近代の南海トラフ地震前後における京都での有感記録の検討

昼休み<1時間5分>

ポスターセッション コアタイム 13:00～14:15

休憩<15分>

口頭発表セッションV 14:30～15:30

座長 蝦名裕一

O-20 榎原雅治

寺社修造件数からみた「明応南海地震」の可能性

O-21 水野 嶺

明応七年六月十一日地震の再検討

O-22 今井健太郎・楠本 聡・堀 高峰
1707 年宝永地震の波源断層モデル再考

O-23 中川和之
1984 年、村のコピー用紙はなぜ足りなくなった？

休憩<15 分>

口頭発表セッションVI 15:45~16:30

座長 石辺岳男

O-24 佐々木淳
享徳地震津波に関する史料である可能性が高い記録について

O-25 大邑潤三・加納靖之
賀茂別雷神社「社記仮附」にみられる文政京都地震の余震記録の検討

O-26 蝦名裕一
1611 年慶長奥州地震津波の発生時刻および震度の再検討

ポスター発表

P-01 原田智也・西山昭仁
奈良県南部の史料に記録された安政東海・南海地震

P-02 板東大生・馬場俊孝
安政東海地震における静岡県での火災被害

P-03 久永哲也・内田篤貴・黒川知萌巳・小川典芳・北川穂乃香・武村雅之・都築充雄
東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について
(その6)

P-04 加納靖之・大邑潤三
『新収日本地震史料』の編纂時資料のデジタル化

P-05 伊尾木圭衣・山下裕亮
宮崎県宮崎市沿岸での津波浸水範囲の考察

P-06 徳田光希・荒井賢一
埼玉県所沢市に残る日記から読み取れる 1923 年関東地震の前後の地震

P-07 青島 晃
通信調査に基づく1891年濃尾地震による岐阜県・愛知県の液状化現象

P-08 石瀬素子・大邑潤三・加納靖之・飯野真帆・長嶋史明・吾妻 崇・松島信一
1894 年庄内地震の被害分布に関する検討

P-09 都司嘉宣・今井健太郎・畔柳陽介・木南孝博
嘉祥三年(850)出羽地震とその津波について

P-10 都司嘉宣
安政5 年(1858)飛越地震による死者分布